

SR-S328TR1 V14.00 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	MLAG機能	MLAG(Multi-chassis Link Aggregation)機能を追加しました。
2	バックアップポート機能改善	バックアップポート機能に以下の機能追加をしました。 1. VLAN単位にmasterポート/backupポートの両ポートを同時に使用できるvlan-based動作モードを追加しました。 2. 稼働ポートの切り替え発生時に上位接続された装置のMACアドレス学習テーブルを更新させる切替通知パケットの通知機能を追加しました。
3	HTTPS機能	Webブラウザ画面から本装置の設定操作を行う際に、HTTPSプロトコルにて利用可能としました。
4	Web認証機能改善	Web認証機能に以下の機能追加をしました。 1. HTTPSにて認証可能としました。 2. 認証ログイン画面のリダイレクトを可能としました。 3. 認証成功時に指定されたURLや、ユーザが最初にアクセスされたURLへの自動リダイレクトを可能としました。 4. 認証ログイン画面のカスタマイズを可能としました。 5. RADIUS認証要求時にCalling-Stationアトリビュートの設定を追加しました。
5	SNMP機能改善	SNMP機能に以下の機能追加をしました。 1. ネットワークループ障害検出時のTrap送信ループ検出機能およびストーム制御機能によるネットワークループ障害検出時に、個別Trapを送信可能としました。またMIBも追加しました。 2. snmpEngineBoots値の保全対応 SNMPv3利用時に本装置再起動時にもsnmpEngineBoots値を更新可能としました。
6	FTP機能改善	1. 本装置内のソフトウェアをFTPにて退避(get)可能としました。 2. copyコマンドにおいて、FTPサーバ上のファイルを指定可能しました。
7	RAS機能改善	1. パケットバッファおよびMAC学習テーブルのパリティエラー検出動作を、一定時間内に複数回発生した場合のみをハード異常と見なすよう改善しました。 2. パリティエラー検出時の自動リカバリ処理を追加しました。また未使用テーブルのパリティチェックを無効化しました。
8	最大値改善	1. MACアドレス収集可能端末数を1000に拡張しました。
9	その他	1. DHCPスヌープ機能のuntrustedポートにおいて、ループ検出機能による検知を可能としました。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V13.08～V13.10	ARP認証機能の認証不要IPアドレス設定を追加し動的定義変更を実施するとシステムダウンが発生する可能性がある。
2	V13.08～V13.10	MACアドレス収集機能にて収集したMACアドレスがaaactlコマンドにてAAAユーザ情報へ設定できない可能性がある。
3	V13.08～V13.10	Webブラウザの操作メニュー「ARP認証の初期化」画面にて、ARP認証情報一覧の表示に数分程度の時間を要する可能性がある。
4	V13.08～V13.10	Webブラウザの設定メニュー「LAN情報-IP関連-DSCP値書き換え情報」画面にて、参照可能なACL情報があっても「ACL定義参照」ボタン押下時に「参照情報なし」と表示され参照できない。
5	V13.08～V13.10	Webブラウザの操作メニュー「MACアドレス収集」画面にて、AAAグループIDが定義されていない場合に、MACアドレス収集が開始できない。
6	V13.08～V13.10	Webブラウザの設定メニュー「ether情報」画面にて、ポートリスト指定にて複数ポートを同時に設定変更するとき、正常に設定変更できない可能性がある。
7	V13.08～V13.10	ether qos aclmapまたはvlan qos aclmapコマンドの<action>で“tos”指定した場合、IP通信データ内のIP Precedence値へ正しく反映されず、TOSが正しく機能しない。
8	V13.08～V13.10	IEEE802.ah機能のカスタムポートから9195～9198バイトのパケットを入力すると、IEEE802.ah機能の相手装置のプロバイダポートでJabbers、SymbolErrorsとなり破棄される。